



平成25年度第1回 東京書籍賞

団体表彰

受賞のことば

東京書籍賞 専門学校部門 最優秀賞

岡山赤十字看護専門学校

伊藤夕依さん

この度は、岡山赤十字看護専門学校が最優秀賞という素晴らしい賞を頂くことができ、大変嬉しく感じております。

私は、学校へ入学する前の4年間ホテルのフロントで勤務しておりました。幼い頃から岡山弁丸出しの、言葉遣いなどあまり気にしない性質でしたが、職業柄そうもいかず、自分では何となく恥ずかしい気がしながらも、「綺麗な言葉」というものを意識して接客を行ってまいりました。初めは綺麗な言葉を使う自分に違和感をいだきながらも、月日が経つとそんな自分に慣れてきて、言葉はどんどんと変化し、「綺麗な言葉」から「親しみを感じる丁寧な言葉」へと変わっていきました。それは堅過ぎず崩れ過ぎず、相手が和み、初対面でも緊張しない話し方を考えて生まれた言葉でした。

岡山赤十字看護専門学校へ入学すると日本語検定の4級を受ける事になり、正直、私は焦りました。「職業柄日本語をきちんと話せるはずの人間が、日本語検定の4級に落ちてしまったらヤバイ。」という考えが一番頭に浮かんだのです。そして、「いやいや、4級くらい簡単に受からなくてどうする。」という考えも同時に浮かびました。そして後者の考えは、問題集を見て、いとも簡単に消し去られました。「難しい」と言うよりは、「ややこしい」というのが一番の印象でした。普段何気なく使っている言葉が曖昧過ぎて、問題集にある選択問題の答えが、全て正解のようにも感じるかと思えば、全て誤りのようにも感じられ、深く考えれば考える程わけが分からなくなっていき、日本語の難しさを痛感させられました。しかし、普段曖昧に使っていた言葉を、問題集を活用し、正しい日本語として追求していけばいくほど、きちんと正しく理解する事ができ、とても楽しく学ぶ事ができました。今回、日本語検定の4級を受け、日本語の基礎を学ぶ事ができました。日本語検定試験に向けて学ぶ中で、同音異義語や熟語の意味、句読点を付ける位置で全く違う意味の文になるなど、日本語の面白さや日本語にしかない良さを知り、学ぶ事ができ、本当に良かったです。また、その機会を与えてくれた学校に心から感謝しています。

今回は、学校の代表として、日本語検定を受けた感想を書かせて頂きましたが、最優秀賞という素晴らしい賞を頂く事ができた背景には、一人ひとりが一生懸命学び、努力した結果だと思います。今回学んだ日本語の基礎を十分に活かし、正しい日本語が使い、親しみある看護師となれるよう日々努力し、成長していきたいと考えています。

